

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970103129		
法人名	医療法人健和会		
事業所名	グループホームふれあい東九条		
所在地	奈良市東九条町886-1		
自己評価作成日	平成30年12月7日	評価結果市町村受理日	平成31年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成30年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成17年にオープンし、14年目を迎えました。いわゆる箱モノという感じの建物なので館の内外ともに工夫を凝らした安心できる場の提供に心がけています。外回りには季節の花を植え、ホーム内の壁面・居室は作品などを飾っています。特に内玄関では珍しい花を置き、出入りするたびに喜んでもらっています。最近では朝刊の目を引く記事の一部を拡大コピーし10時のティータイム時に読んでもらったり、見てもらったりで季節感を味わってもらったり、季節ごとの行事などから話題を広げるきっかけになっています。職員の企画する行事やレクレーションをはじめ毎月3組ぐらいのボランティアさんの協力を得ています。京都や大阪、橿原からの来て頂き利用者の皆さんも楽しみにされています。職員退職は少なく安定しています。明るい楽しい安全な生活を提供して行けるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人で、緊急時にも円滑な対応をしてもらえる安心感があります。法人理念を大切に考えながら、地域密着型サービスとして何が大切かをよく理解し、事業所独自の理念をつくり、玄関に掲示しておられます。開設時から自治会に加入し、地域の活動や住民との交流に積極的に取り組んでおられます。事業所の玄関は鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ね、利用者の自由な暮らしを支援されています。また、廊下の壁面には利用者の家族が作成された果物や植物の絵葉書を掲示し、季節感や生活感のある家庭的な雰囲気を醸し出し、利用者が穏やかに過ごせるように配慮された事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念でもある「人との温かいふれあいの心」を事業所の理念とし、地域とのつながりやホーム内でのふれあいを大切にしている。	法人理念を大切に考えながら、地域密着型サービスとして何が大切かをよく理解し、事業所独自の理念をつくり、玄関に掲示しておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、年2回の清掃に職員が参加し、地域住民の方とコミュニケーションを図っている。オープン時から毎月来て下さるボランティアさんは地域住民の方である。	事業所開設時から自治会に加入しています。野菜等の差し入れや、事業所周りの剪定も手伝ってもらう等、近隣の方と触れ合う機会も多く、日常的な交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護施設であるらしいという事で飛び込みの相談もある。電話での相談やケアマネさんからの問い合わせ等随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期的な会議や健康教室、おやつ作り等を開催し、情報は施設運営に反映させ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されています。自治会代表者(民生委員)、市・包括担当者、家族代表者等の参加の下、事業所報告や情報交換を行い、サービス向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出席はしてもらえないものの、運営推進会議の議事録や東九条便りを同封して会議の案内をしている。必要時、相談や確認は常に行っている。	市職員と様々な機会を通じて連絡を密に取り、情報の共有を図っておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を選定し、勉強会の際、3カ月毎に拘束の有無を確認している。又、委員会設置後の勉強会で身体拘束廃止についての周知を図った。	玄関にドアチャイムはついていますが、施錠はされていません。身体拘束廃止委員会を設置し、職員全体で利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしが出来るように支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ふれあいの里の研修や、外部研修などで学んだ事を勉強会で伝達講習し、情報を共有し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について地域包括主催の研修に参加している。1名の方について後見人である弁護士に相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等に基き説明を行っている。納得して頂いたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議録、外部評価などいつでも見られるように内玄関にファイルを設置している。推進会議での提案、情報は特に反映している。	家族との面会や推進会議等で意見や要望を聞く機会を設け、出された意見や要望は職員全体で話し合い、運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換、業務改善等話し合い、その都度反映している。	職員会議や朝礼等で職員の意見を聞く機会を設け、意見や情報をしっかりと取り入れるように努めておられます。また、日頃からコミュニケーションを図りながら運営されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の就業規則に沿っている。キャリアパスの導入により、やりがい、向上心を持って働けるようにしている。ストレスチェック制度の導入もされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修受講を呼びかけ、勤務扱いで受講できる配慮をしている。ホームでも毎月の勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ふれあいの里の管理職研修に参加し、他施設の情報や対応策等を学んだり交流している。プリセプター研修の一環として1日実習を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、ホームの見学等を通して、利用者、家族様とのコミュニケーションを図り、入居後少しでも早くホームでの生活に慣れて頂けるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	環境が変わる事で、病気の進行や環境に馴染めるのか等の不安があるので、面会や馴染みの物の持ち込み等制限せず、家族様と共に不安の解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されても、面接や担当者会議等で検討の上、グループホームでの生活が明らかに困難と思われる方は、他のサービスを勧めたり相談先の案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	知らない事を教えて頂いて時には生活に反映したり、各々出来る事はして頂き、お互い助け合って生活できる関係を築けるよう、職員も感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、部屋やリビングでゆっくり過ごしてもらったり、近況を伝える事はもちろん、必要な事や必要な物、状態変化等は随時連絡を入れ、協力を仰いだり、面会の機会を持って頂くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供や孫さんなど家族で面会してもらったり、兄弟姉妹が遠方から来られる事もある。家族様の了承を得て、知人の方の面会受け入れや郵便受け渡しも行っている。	知人や友人の事業所訪問もあり、馴染みの関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ずと馴染みの関係や場所が出来ているが、時には職員が間に入り、繋がりが持てる機会を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたらお見舞いしたり、そのまま退去されても退去先に伺ったりしている。入所先の検討等も相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張できる方については、施設生活の中で無理の無い範囲での希望には添うよう努めている。主張されない方についても、希望や意向を生活の中で把握するよう努めている。	自分の意思を主張される利用者もおられますが、職員は利用者との日々の関わりの中で声かけを行い、思いや意向の把握に努めておられます。また、意思疎通が困難な利用者は、家族等から情報を得るようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者、家族様、ケアマネからの情報等で経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や食事量、血圧測定値等毎日記録に残し、状態の変化や現状について把握、共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見書や認定調査票、家族様からの情報等をアセスメントし職員会議で検討後、ケアプランを作成、家族様の同意を得ている。希望があれば組み込んでいる。	利用者や家族の意見を採り入れ、職員全体で意見交換やモニタリングを行いながら3ヶ月に1回計画の見直しを行っておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は毎日経過記録に記入し、2週間毎ケアプランの評価と、3カ月毎のケアプラン見直しに活かしている。難題発生時は都度ミーティングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ADLの低下があり、日常生活が困難になられた場合等は安全に過ぎて頂く為にも介護用品の検討をしたり、車椅子のレンタル、オムツ類の購入等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所の菊展や外食、花見ドライブ等、地域資源を活用しながら暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様の希望を大切にしている。法人がひまわりクリニックを開設したので、希望の方は月2回の訪問診療を往診してもらっている。	利用者や家族の希望に応じたかかりつけ医の受診を支援されています。また、歯科受診についても家族の希望があれば訪問診療を受けられるように取り組んでおられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	責任者が看護師を兼任しているので医療連携体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はお見舞いを行い、利用者、家族様、医師、ケースワーカー等との情報交換をしながら早く退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りマニュアルはあるが、設備、職員体制等で難点がある為、過去には家族様の意見を聞き検討しながら対応してきた。	利用者や家族の意向を確認しながら職員全体で話し合い、安心した最期を迎えられるように、随時意思確認を図りながら、支援に取り組んでおられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。AEDの使用方法やノロウイルス対策等随時勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対策マニュアルを作成している。消防訓練及び消防設備点検は年に2回実施している。訓練実施時は近隣の方に声かけし参加してもらっている。	災害対策マニュアルを策定して、年2回の防災訓練を行っておられます。消防署の協力を得て消火器の使用、避難経路の確認等、昼夜を通じて様々な発生時間を想定した訓練を実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の接遇マニュアル・プライバシーポリシーに沿って勉強会や指導を行っている。特に尊厳のある気持ちの良い言葉づかいが出来るように心掛けている。	法人母体の研修会で接遇についての重点研修を受講し、利用者の気持ちを大切に考えながら、さりげないケアを心がけておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベントの参加や手芸など、参加は強要せず自由で、希望を聞き出来る範囲で選択してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等個人のペースを優先するようにしている。睡眠不足時は臥床の時間を設けたり、食事時間をずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者の髭剃り支援や、髪の毛の寝癖直し、服装の乱れ等に気を配り好みの把握にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の希望を聞いたり、野菜の下拵え、食器拭き等出来る事を出来る方にもってもらったり、初物や旬の野菜、メニューは紹介しながら味わってもらい季節感も大事にしている。	職員は利用者一人ひとりの好みを踏まえ、季節感のある食材を採り入れながら、メニューを工夫されています。また、職員と利用者が後片付けを一緒に行う事で、利用者の力の源につながっています。	食事の時間がより楽しくなるように、利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べることができるよう工夫を検討されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を作成し、軟らかく、食べやすい大きさ等個々に合わせ、分量等も工夫している。食事量・水分量はシートでチェックし情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは居室に誘導し、声掛け、見守り、援助は個別に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、訴えやサイン、又は定時誘導を行っている。汚染増加傾向が見られたら、減少できるよう検討している。	利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、さりげない声かけを行いながら、出来る限りトイレで排泄できるように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう食事やティータイム以外にも外気浴の後や運動の後等補給してもらっている。ラジオ体操・ペットボトル体操・散歩など日課にしている。特に気になる方は水分強化している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の都合上、曜日・時間帯を決めている。長風呂にならないよう注意し、順番や中止等は選択してもらっている。菖蒲湯やゆず湯なども楽しんでもらっている。	週3回の入浴支援を行っておられます。利用者の体調等に配慮しながら、安心感と満足感のある支援をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夏は涼しく、冬は暖かく寝心地の良い環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用については勉強会で学び、誤薬や飲みこぼしの無いよう注意して服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの壁面飾りや塗り絵、作品作り等、楽しみながら作り上げている。女性は家事にも積極的に参加されている。取り入れて間がないがカラオケ機器を購入し、好きな方に喜んでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置や車の免許の有無等、無理な場合はあるが、外食や季節のドライブで出かける機会は、設けるよう支援している。特例だが、身内に変わり自宅や墓参りの付き添いも行った。	天気の良い日には日光浴や、事業所の周辺を散歩されています。また、季節に応じて、市の菊展に出かける等、短時間でも外出できる機会を積極的に作られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、殆ど所持されていない。財布を所持されている方は、肌身離さず時々確認されたり、お金の勘定をされている事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されたら、自由に掛けてもらっている。家族様からの電話の取次ぎも行っている。親戚・知人からの手紙の取次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは季節を感じられる壁面にし、出品作品の展示をしたりしている。大きな日めくりを吊るしたり、献立表を置いたりしている。加湿器付空気清浄器も導入した。	リビングには利用者がゆったり座れるソファが設置され、利用者が穏やかに過ごせる空間になっています。また、廊下の壁面には利用者の家族が作成された果物や植物の絵葉書を掲示し、生活感のある居心地の良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞を読まれたり、仲良し同志で談笑されたり、自室でテレビを観られたり寛げる時間も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のリスクを考慮し断る場合もあるが、家具や小物類は使い慣れた馴染みの物等の持ち込みは自由に行っている。ラジカセ・携帯電話等持ち込まれている方もある。	居室には写真や思い出の品々が持ち込まれ、職員は利用者が落ち着いて過ごせるような環境づくりに配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掛けている。トイレも表示しているが迷われる方もあるので、その都度対応している。特に廊下は余分な物を置かない様に整備している。		